

静岡県日中友好協議会

NEWS LETTER

No.131
2023.7



杭州2022年第19届亚运会
The 19th Asian Games Hangzhou 2022

ハスの花をイメージする杭州奥体中心体育馆

2023年9月23日から10月8日まで、浙江省の省都・杭州市で「第19回アジア競技大会」が開かれます。コロナウィルスの影響で1年延期されましたが、北京市、広州市に続き、中国では3回目の開催です。今大会において新たにe-スポーツが競技に加わることで注目されています。

杭州市の域内を流れる錢塘江に隣接する「杭州奥体中心体育馆」は、セレモニーや陸上競技等に利用されます。「大蓮花」とも呼ばれるハスの花をイメージした競技場であり、競技場面積8.23万m²、総面積は21.6万m²の広さを誇り、座席数は8万席に上ります。建物屋根に28枚の大きな花弁に、27枚の小さな花弁が重なり、まさに杭州市の西湖に咲き誇るハスの花の姿を表しています。

特 集

2023年度定期総会を開催 ー 対面交流の再開に期待ー
静岡一浙江ビジネスマッチング交流会 対面で商談

- ◎浙江省を疾走する『高鉄』の今 『一時間交通圏』が実現
- ◎駐在生活から見える「季節の色 “カラー”」 静岡県上海事務所長
- ◎花を巡る旅情 《紹興の蘭（ラン）》
- ◎三国志の英雄達 ゆかりの地・諸葛孔明と諸葛八卦村

5月25日、静岡市のホテルグランヒルズ静岡で本協議会の2023年度定期総会を開催しました。本協議会の交流事業も昨年度はオンラインが中心でしたが、コロナ渦の収束化にともない、今年に入ってからは相互訪問、対面交流の活動が再開しています。

今年度はこうした状況をふまえ対面交流を増やす計画であり、また新理事の選任、理事長交代があり、新たなスタートを踏み出しました。



【川勝平太会長 挨拶要旨】 草の根を更に広げ、すそ野を広げる交流を期待



浙江省との間で友好協定が結ばれて、昨年は40周年でしたが、40周年はコロナの中で、残念ながらオンラインでした。それ故に、それが挨拶して友好を深め、またその後、何とか早く静岡と杭州を結ぶ航路を再開しようではないかと、また9月には杭州でアジアスポーツ大会が開かれるのでぜひ協力してほしい、ぜひ協力しましょう、となっております。

私が2009年に知事なった時には礎ができていました。その翌年に今日ご出席の栗原さんが理事長に就任し、一緒に日中友好協議会、日中友好関係の発展のためにやってきましたが、ご都合により退かれるということで、協議会会員すべてを代表して、これまでの栗原さんのご貢献に対し厚くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。これからもお体を大切に、これまでの知見を活かして、日中友好や協議会の発展のためにアドバイス等いただければと存じます。後継の増井浩二さんは静岡県の地域外交のトップを勤められ、また県立大学の事務方のトップも勤められ、正に適任ですので、栗原さんに勝るとも劣らない仕事をしていただけるようお願いを申し上げます。

中国との関係はこの世界の関係に振り回されるところもありますが、我々のこの日中友好協議会をはじめ、県と中国浙江省との関係は極めて堅牢な基盤の上に立っているという実績を誇っているのではないかと思います。一部の為政者の間で厳しい緊張があっても、我々浙江省の人々と静岡県民は常にお互いに信頼しあって喧嘩はしない、そういう意味で常に大きな安全の窓口を国に対しても主張できるだけのことをしてきたと思います。浙江省に我々はたくさんの友人がいます。国交だけではなく地域間関係、また草の根の交流というのも極めて重要で、こうした精神に基づいて我々は県を挙げて交流に努めてきた、この善隣の精神をもって友誼を深めながら平和を作り上げていくということです。できることをやっていく、大きなことはともかく小さなできることから積み重ねて、草の根を広げ、すそ野を広げながら、友好関係を将来につないでいきたいと思っています。

理事長が交代 増井新理事長にバトンタッチ、新体制へ

今回の総会で、2年に1回の改選で役員体制も新体制となり、13年にわたり理事長を務めた栗原績氏が理事長を退任し、増井浩二氏が新たに理事長に就任し、バトンタッチしました。

【増井浩二新理事長 就任挨拶】



増井浩二 略歴

昭和32年7月生まれ
昭和55年4月 静岡県庁入庁
平成28年4月 地域外交監就任
平成31年4月 静岡公立大学法人理事兼
法人本部事務局長に就任
令和 5年4月 静岡公立大学法人理事退任

この度、新しく理事長になるということで、今まで行政側で交流の実際をやっていましたが、今度は民間の側に立って行政と一緒に中国との交流を一層深めていきたいと思っています。

尖閣等の問題で色々な所で交流が中断してしまった時でも、本県では交流を続けた事実があり、そのことが後になって「嵐の日もあったけれども、そうした時であっても一緒に交流を進めてくれたことに非常に感謝をしている」と中国の方が私共におっしゃったことがあります。

交流というのは、いろいろな場面があると思いますが、地道にできることを継続してやっていくということが如何に大事かと痛感しました。これからもできることを地道に積み重ねてまいりたいと思っておりますので、会員の皆様のご支援ご協力をぜひともお願いを申し上げます。

【栗原績前理事長 退任挨拶】

2010年に理事長に就任しまして早いもので13年経ちました。この間、役員の皆さん、会員の皆さんに大変なご理解とご協力をいただきまして、業務を進めてくることができました。13年間を振り返りますと、始めのころ経済交流中心だったのが、事業報告にもありましたように、環境、介護、いろいろな分野の交流の要望が多くなりまして、例えば、県庁ではいろいろな部局の部長に委員になってもらい、取り組んでまいりました。

これからも今まで同じというわけにはいかないかもしれません、みんなして、そういう対応がやれていけばいいのかなと、増井さんにはそういうこともお願いしていきたいと思います。

今日、司会をして、議長を務めてくれました高橋さんをはじめ事務局の皆さん本当にありがとうございました。今後とも皆さん協議会そして日中交流についてご協力いただくことをお願いして、挨拶とします。



特 集

静岡－浙江ビジネスマッチング交流会 対面で商談

6月22日、中国国際貿易促進委員会浙江省委員会（浙江省貿促会）の陳建忠会長を団長とする浙江省経貿交流代表団一行44名が静岡県を訪れ、対面交流を行いました。静岡県副知事表敬訪問、23日には静岡県の企業とビジネスマッチング交流会を開催、また、はごろもフーズの工場を見学、活発な交流活動が行われました。

静岡－浙江ビジネスマッチング交流会は、先ず浙江省貿促会・陳建忠会長が、続いて静岡県国際経済振興会・吉林章仁会長がお互いを代表して挨拶し、静岡県経済産業部・高橋良和商工業局長より、静岡県の産業政策が紹介されました。双方の参加者は会場に大きく投影されたLED画面を見ながら、視聴しながら理解を深めました。その後、浙江省産業発展状況の紹介や衢州市の産業発展情況の紹介があり、各テーブルに振り分けられた日中の企業同士での個別商談会に参加しました。交流会の始まる前から会場に三々五々到着した企業家たちは熱心に商談を始めており、久しぶりの対面交流が大いに盛り上がりを見せっていました。

吉林章仁会長挨拶



今回の交流会は、コロナ後初めての直接交流できる機会で、直接会っての面談、PRを通じて、両県省の企業間のビジネスチャンスの拡大につなげてほしいと期待している。また、友好提携40周年また本日の交流会を契機に、今後、浙江省と静岡県との交流がより深まり、さらにより成熟した段階へ発展することを願う。

陳建忠会長挨拶



今回の交流会開催を契機に、より深く、より幅広く、よりハイレベルで、協力関係交流を開拓し、
①新発展のチャンスの創造を享有
②開放発展のチャンスを享有
③エコロジー発展のチャンスを享有、することにより双方にとってのウインウインの関係を促進していきたい。



浙江省を疾走する『高鉄』の今

浙江省は、2025年までに省都・杭州市と省内各市を結ぶ交通網を整備し、省内どこへ行くにも1時間で行ける**一時間交通圏**を実現することを目指しています。省内に高速鉄道網12路線を整備、一層の経済発展を目指します。今回はそのうち3路線を紹介します。



① 甬台温铁路



区間　寧波－台州－溫州

全長 282.39km

開通 2009年9月28日

この路線はいわゆる「高速鉄道」ではなく一般の鉄道で、高速で走る車両は「動車」と呼ばれます。寧波市から温州市まで14駅で繋ぎますが、うち、台州南駅と終点の瓯海駅は貨物専用駅です。寧波駅から乗降のできる温州南駅までは約2時間20分かかります。

2011年7月電気回路の故障により止まっていた車両に後ろから来た車両が衝突、脱線し40名が命を落とした事故がありました。

2019年に寧波から温州まで新たに高速鉄道を建設することが決まり、寧波から温州まで1時間で行けるようになります。

② 溫福鐵路



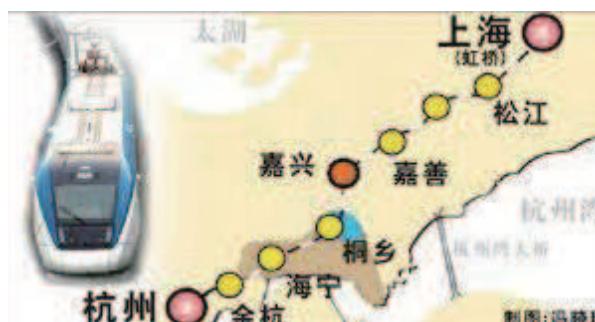
区間　溫州－福建省福州

全長 302km（うち浙江
省内 77km）

開通 2009年9月28日

甬台温鉄道と同日に開通、上海から杭州、深圳までを結ぶ重要な交通網の一端を担っています。山と海が多く、線路の81%をトンネルと橋が占めており、施工時難易度が非常に高かった路線の一つに挙げられています。

③ 滬杭高鐵



区間　上海－杭州

全長 158km（うち浙江省内 103km）

開通 2010年10月26日

上海と杭州を結ぶ重要な高速鉄道で最高時速は350km、嘉善県・嘉興市・桐郷市・海寧市・杭州市に停車します。この高鉄が開通してから上海から杭州まで1時間余で行けるようになりました。



駐在生活から見える「季節の色 “カラー”」

皆さんこんにちは。静岡県上海事務所長の石川と申します。
6月に上海へ赴任しまして、現地業務をスタートさせました。
久々の上海では、街中で日本人を見かける機会が減ったように
感じます。コロナ禍で出張や観光を控えていた方も沢山いらっしゃると思いますので、季節の色をテーマに「中国の今」をお届けします。



静岡国際経済上海事務所
石川祐介所長

駐在員の生活を支える「緑色」

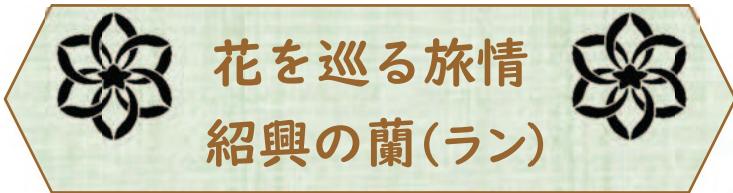
上海は7月上旬には梅雨が明け、夏本番を迎えていいます。湿度が高く蒸し暑いですが、深緑色の葉を広げたプラタナスの街路樹が、涼しげな木陰をつくっています。

古き街並みが次々と高層ビルに生まれ変わる上海では、この数年で仕事の仕方も大きく変化しています。その1つが緑色のアイコンのアプリ「微信（WeChat）」の活用です。中国版LINEとも呼ばれるアプリの普及で名刺交換は形骸化し、微信IDの交換が実質的な挨拶となりました。初対面の別れ際には双方がメッセージを送信し、そのままチャットが始まることも珍しくありません。日本では面談後に落ち着いてから御礼のメールをしようとPCを開く頃、中国では既に複数の関係者を招き入れたグループチャットが立ち上がり、情報共有や意思決定が次のステージに進んでいることも日常で、このスピード感には驚かされるばかりです。また、このアプリは電子マネーの機能もあり、スーパーや飲食屋台、公共交通機関での支払いも可能です。私は上海に到着した翌日からすでに1か月ほど現金を触らない生活が続いています。（ただし、携帯電話のバッテリー残量には敏感になりました。）

横断歩道でクラクションを鳴らして「我こそは優先」と走っていた自動車は、歩行者の横断を待つようになり、交通マナーも格段に向上しました。車のナンバープレートは、従前の青色から電気自動車など新エネルギー車を示す緑色が増えています。現在、上海市では青色ナンバー取得に10万元（約200万円）もの大金が必要ですが、緑色ナンバー取得には、この費用が不要で、現地でEVシフトが進むのも頷けます。

6月下旬の端午節には、有名な観光地である外灘（バンド）の絵葉書を買いました。静岡県内で暮らす娘に宛てた手紙は、中国郵政の緑色のポストに投函され、この文章が掲載される頃には、家族の手元に届いているだろうと楽しみにしています。





蘭は中国の10大伝統名花の一つで、主に長江流域南部に生息しています。爽やかな香りと優雅な姿から気高い美しさの象徴とされるこの蘭の花は紹興市の市花でもあります。



紹興蘭は紹興市特産の蘭の花です。2月中旬から3月中旬にかけ、淡い緑や黄緑色の花を咲かせます。紹興蘭にも種類が様々あり、花の色や形、香もそれぞれ個性的です。希少種「綠雲」は国家级保護下となっている貴重な品種です。胡蝶蘭のような華やかさとは異なりますが、その清らかな香りは古くから人々を魅了し続けています。

紹興市は中国の中でも早期より蘭の花を栽培していました。古くは春秋戦国時代、漢の袁康・呉平撰述とされる地方誌「越絶書」に「勾践植蘭渚山」とあり、臥薪嘗胆で有名な王勾践が紹興の渚山に蘭を植えたと書かれています。

また、353年王羲之は会稽山の麓の蘭亭で曲水の宴を開き、その時に作られた詩の序文として、醉っぱらいながら詠んで揮毫した「蘭亭序」は日本の書道家の間でもなじみの深い書です。このように紹興市には蘭の花と身近に親しんできた歴史があります。

蘭の花を詠む

莫訝春光不屬儂、

一香已足壓千紅。

總令摘向韓娘袖、

不作人間腦麝風。

春の風光が貴方のものではなくても驚かないでください。

一筋の蘭の香は何千もの花の香りを超えてます。

常に美しい娘たちが蘭の花を摘み、袖に入れて楽しめます。

その香りは竜脑麝香のようなよく使われる香料とも異なるのです。

徐渭 (1521-1593)

紹興人、明代の文人で字文長、青藤居士、天池山人、天水月等の号を持ち、書・画・詩・詞等文芸に秀でた奇才多才の人であったのと同時に美食家でお酒が好きだったとも伝えられます。5年間幕僚に当たりましたが、生涯山野を放浪し、富貴な人と交わらず、孤高の生活を送りました。この蘭の花を詠んだ詩は、その清らかな香りと世間に媚びない様子を借りて孤高の姿を表現したとされています。



三国志の英雄達 ゆかりの地



諸葛孔明と諸葛八卦村

諸葛孔明（181年-234年）、字は孔明、またの名を臥龍と言います。漢民族で徐州琅琊陽都（現山東省沂南県）に生まれ三国時代蜀国の丞相、政治家、軍師、散文家、書家、発明家です。劉備の軍師として天下三部の計を提案、赤壁の戦いでは孫権と連合して曹操を破りました。その後も蜀漢の建国者である劉備の創業を助け、その子の劉禅の丞相として補佐しました。雲南地方に遠征して異民族を抑えた後、魏への北伐を数回実行、その途中、234年に五丈原（現宝鶏市岐山境内）にこの世を去りました。

諸葛八卦村は浙江省蘭渓市の中心部から西に17km離れたところにあります。高速鉄道は諸葛八卦村がある蘭渓市の隣街である金華市まで通じています。杭州から蘭渓まで列車で行こうとすると直接列車がないので、金華西駅まで行き、金華西駅で蘭渓に行く列車に乗り換え、金華西駅から蘭渓までの列車の本数はほとんどないので、金華西駅からタクシーで諸葛八卦村まで行くことができます。

現在、村民約4,000名のうち80%が諸葛姓だと言われ、諸葛孔明の子孫が住むと伝わる村では中国最大の村です。諸葛孔明から14代目にあたる諸葛利は中原の戦乱を避けるため現在の浙江省紹興で官職を探し県令に任じられ、息子の諸葛青が西暦1018年に蘭渓に移り住みました。現在の八卦村ができたのは、元朝中期の西暦1340年前後、第27代諸葛大師の時代、諸葛青は建築の専門知識に明るく、子孫を発展させるために今の諸葛八卦村の土地を買い取り、村の構造を綿密に定めたうえで諸葛一族の村づくりを開始しました。



村全体が九宮八卦を礎として鐘池を中心に八方向に道が伸び（内八卦）、また村の外側にちょうど8つの丘があり（外八卦）、外から見つけにくいため攻撃されにくく、何百年もの歳月がたち、人や家が増えても町全体はそのままの姿を保っています。一族に伝わっている諸葛孔明の教え「不為良相、便為良医」（良き宰相とならずんば良き医者たれ）の通り、漢方薬関連を生業としている人が多いところです。

諸葛孔明の知と血がここ浙江省の地で脈々と息づいています。

発行所：静岡県日中友好協議会
発行人：増井浩二

静岡市葵区追手町44-1（静岡県産業経済会館1F）
TEL (054) 255-8111